

二十九 講演

私が各地に出かける時は、最初のころは、清浦伯爵、伯爵が亡くなられた後は、文部省大学課長の春山順之輔さんなどの紹介状をもらって行ったのです。そして日程は自分でつくるのです。たとえば、A市の講演がすみかけると昼間は講演、講習、練習会などで時間をとるのでそれがすむと夜、次の予定地B市に行き、その校長さんたちにお会いし、A市がすめばすぐその翌日講演できるように予約してA市にもどるのです。そしてA市の講演がすめばすぐその翌日、B市で講演するのです。それからB市の講演がすみかけると、また夜、C市に行き、学校長さんたちを次々訪問して、B市がすんだらすぐその翌日講演できるように予約してB市にもどる、B市がすめばすぐ翌日、C市で講演するというようにして、一日も空かないように日程を自分でつくりながら運動したものでした。福岡県のある中学校の校長さんが「あなたの話は面白いそうだから自分の学校ではやらせない。面白い話に碌な話はないから自分の学校ではやらせない」といわれたことがあります。それで私は「漫談をやっているわけではありません。こういう話をするから皆喜んで笑うのです」といって話の内容を説明すると非常に感心され、自分の学校でもぜひ話してほぐたい、といわれて講演したことを覚えているのです。

とにかくこうして、朝から晩まで動き回ったものでした。ことに朝はせつかく遠方まで来ているからと